

## 「父の三日間」

愛媛県 亀山美穂

外では働き者だと評判の父は、家ではとてもぐうたらおやじになります。家での役割は、四角い部屋を丸く掃除機をかけるくらいです。休日は趣味で飼っている犬の世話しかしません。そんな父が、この夏休中に、たった3日間だけ働き者に変身しました。

働き者になった父の1日目は、網戸と窓を洗うことから始まりました。私が宿題もせずにごろごろしている間、父は網戸を洗っていました。それが終わると、父は私に窓ふきを手伝えと命じました。断るとうるさいので私はしぶしぶ手伝いました。

2日目は、兄と縁側を作り直していました。私はそれを見て、なんだかあやしいなあと思いました。また手伝えと言われたら困るので、私は逃げるように遊びに行きました。家に帰ると、縁側はきれいに出来上がっていました。猛暑の中の縁側作りはとても大変だったと思います。

そして3日目、父が私と母を松山に連れて行ってくれました。父の趣味は、私や母のそれとは全く合わないのに、私達は松山に行くとき必ず別行動をとります。しかもケチな父は、いつも2時間しか私達に自由時間をくれません。でもその日はなぜか5時間も自由時間をくれました。うれしかったけれど、なにか不気味な感じでした。

次の日、父は朝から総合病院に行きました。その日の夜、父は安堵の表情で「病院で検査したら何の異常もなかった。良かった。」と母に話していました。私には何の話なのか全然分かりませんでした。後で母から聞いた話によると、働き者になる前日、父は保健所で受けた健康診断で胃に異常があると言われたそうです。早とちりな父は、自分は胃ガンでもうすぐ死ぬんだと思い込みました。そこで父は、自分が生きているうちに少しでも家族のためになることをしようと、働き者に変身したのでした。

自分は健康だという結果を知った父は、今また、ぐうたらおやじに戻っています。